

ブックちゃんの

2020年6月1日発行

ふじのみや探検

たぬきこ

第31号 田貫湖のひみつ



発行：富士宮市立中央図書館 〒418-0067 静岡県富士宮市宮町13-1 TEL:0544-26-5062 FAX:0544-26-1284

写真提供：静岡県観光協会



©富士宮市さくやちゃん



田貫湖は、富士宮市の北にある、^{ひょうこう}標高（海からの高さ）670m、^{しゅうい}周囲3.3 km、面積32ha、水深8mの湖です。多くの人たちが^{おとず}訪れる田貫湖の^{さぐ}ひみつを探ってみましょう。

ひみつ1 田貫湖はどうやってできたの？

憩いの場として多くの人たちに親しまれている田貫湖は、人工的につくられた湖です。もともとは^{たぬきぬま}狸沼とか^{ちようじゃがいけ}長者ヶ池と呼ばれた^{しっち}湿地でしたが、明治20年（1887）ごろの^{ちけいず}地形図には狸沼と書かれています。このあたりは、^{げんざい}新富士山（現在の富士山）ができる前の^{ふんか}古富士火山の^{どろ}噴火で流れ出した泥や土が^{てんし}天子山地にせきとめられ、その下の^{ちそう}地層が水を通しにくくする性質があり、また、地形が東から西にいくほど低いことから、^{いのかしら}山地からの水や猪之頭の湧き水がたまりやすい湿地となりました。

狸沼の水は最後に^{しばかわ}芝川へ流れ出ますが、芝川の水は古くから農業に使われたり、発電にも使われたりしていたので、大正7年（1918）に^{ふじすいでん}富士水電（現在の^{とうきょうでんりよくかぶしがいいしゃ}東京電力株式会社）により、発電用の水を得るために^{かいりよう}改良を始めました。大正12年（1923）の^{かんとうだいしんさい}関東大震災で、水田に利用していた芝川の水の量が少なくなってしまいました。このため、沼を農業用のため池として利用しようと、昭和10年（1935）に静岡県が堤防をきづく工事を行い、^よ田貫湖と呼ぶようになりました。その後、堤防や^{きしべ}岸辺をつくりかえる工事が何度か行われ、現在の美しい姿になり、田植えの時期に水を放流しています。

ひみつ2

なぜ、長者ヶ池や狸沼と呼ばれていたの？

田貫湖には、いくつかの伝説が残されています。その昔、天間（富士市）の吉野長者の娘たまきがここに身を投げて龍になったというお話や、伊豆からやって来た藤次郎がこの池のほとりで豪勢な生活をしたことから長者ヶ池と呼ばれるようになったという言い伝えがあります。また、室町時代のはじめごろ、富士浅間神主の田貫次郎が隠居するために、この沼のほとりに大きな館を建てたことから田貫沼と呼ばれるようになったとのお話があり、湖の北側に田貫神社がまつられています。もともと、このあたりには狸がたくさんいたから狸沼と呼ばれるようになったとの言い伝えもあります。

田貫湖の南西にそびえる天子ヶ岳に咲くヨウラクツツジには、炭焼き松五郎の伝説があります。働き者の松五郎の嫁となった京都のお姫様がこの世を去ったので、その体を都の見える山頂に埋めたところ、みごとなツツジが育ちました。このツツジの枝を折ると雨が降るので、日照りが続くと村の人々は山に登り、枝を折って雨が降るようにお祈りをしたそうです。天子ヶ岳と田貫湖にまつわる伝説は、いずれも水や雨に関係しています。農業には水が欠かせません。昔の人々は、日照りが続くと雨が降のを待ちこがれていました。水をたくわえていた狸沼、長者ヶ池にあこがれをもっていたのかもしれませんがね。

写真提供「富士お散歩見聞録」



田貫神社

まめ知識

おだぬきしづげん 小田貫湿原

田貫湖の北側、猪之頭方面へ東海自然歩道を歩くと小田貫湿原があります。小田貫湿原は、静岡県側の富士山麓では唯一の湿原で、全体の面積は1.75ha、大小多数の池があり、さまざまな種類の植物やトンボ、チョウなどを観察することができます。



ノハナショウブ

植物では、クサレダマ、ノハナショウブ、サワシロギク、キセルアザミ、チダケサシ、アサマフウロ、コオニユリなど60種以上を観察でき、初夏から秋まで色とりどりの花を楽しむことができます。

標高が高いため、低いところの湿地にいる種類と違ったトンボを見ることができます。ヒメアカネ、ルリボシヤンマ、ヨツボシトンボ、アオイトトンボ、コサナエなど約30種がいます。



ルリボシヤンマ

小田貫湿原を中心に、田貫湖から猪之頭周辺には草原が広がっていることから、草原にすむチョウの数が多く、また、西に天子山地があることから、富士山周辺にいるチョウと種類の違うチョウも見られるそうです。ウスバシロチョウ、アサギマダラなど70種以上のチョウが確認されています。



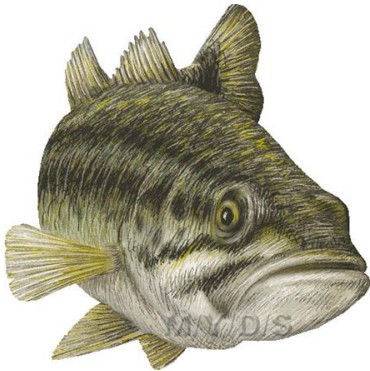
アサギマダラ

ひみつ3 どんな魚や鳥がいるの？ どんな植物が生えているの？

現在の田貫湖にいる魚のほとんどは、放流によるものです。ワカサギ、アブラハヤ、オイカワ、ゲンゴロウブナ（ヘラブナ）、コイ、オオクチバス（ブラックバス）などが知られています。特に多い



ゲンゴロウブナ（ヘラブナ）



オオクチバス（ブラックバス）

のが北アメリカ原産のオオクチバスで、日本にはまず芦ノ湖に放流されましたが、次々と全国に広まり、いつのまにか田貫湖にも入ってきました。魚やエビ類を好んで食べるので、田貫湖にすむ魚のバランスがくずれてしまうことが心配されています。

田貫湖には、冬を越すために、多くのカモが渡ってきます。かつては、キンクロハジロ、ホシハジロ、コガモ、ヒドリガモ、マガモ、そして富士山東側の麓ではあまり見ることのできないオナガカモ、ハシビロガ

モなど 500～600 羽を見ることができました。毎年 1 月にガンカモの調査をしていますが、最近の種類も減って 200 羽～300 羽になってしまい、コガモやハシビロガモは見られなくなりました。地球温暖化で冬の気温が以前ほど下がらなくなり、冬をこすために南に向かう数が減っているとの考えもあるようです。

田貫湖の湖畔から長者ヶ岳に向かう東海自然歩道周辺にはレンゲツツジ、アシタカツツジ、ヤマツツジなどのツツジ類が多くはえていて、春に花が咲くようすは見事です。夏には、湖畔の西の奥にミツガシワが白い花を咲かせます。これは長野県などの高冷地の湿地にはえている珍しい植物で、氷期（↓）から生き延びた植物と考えられています。田貫湖は標高が高いところにあり、かつて湿地だった証拠ですね。



オナガカモ



©富士宮市さくやちゃん



レンゲツツジ



ミツガシワ

▽ 氷期とは？ ▽

地球の気候が大変寒くなり、大陸や海が氷でおおわれた時期のこと。日本列島が大陸とつながった時期もありました。約 260 万年前から、地球は氷河時代に入り、寒冷な時期（氷期）と暖かな時期（間氷期）が繰り返し訪れました。最近の氷期は今から約 1 万年前に終わっています。

ひみつ4 なぜ、田貫湖は全国的に有名なの？

田貫湖から雄大な富士山の姿を目にすることができます。特に富士山の山頂から太陽が上がる「ダイヤモンド富士」が有名で、湖に映る姿は神秘的です。見ることができるのは、毎年、4月20日前後と8月20日前後で、朝の6時ごろです。この姿を撮影しようと全国から大勢のカメラマンが集まります。



ダブルダイヤモンド富士



湖の西側にはキャンプ場やホテルが整備され、多くの観光客が訪れています。平成12年(2000)にオープンした国民休暇村は、すべての部屋から富士山を望むことができるため、人気があります。田貫湖ふれあい自然塾にも多くの団体や家族連れが訪れます。キャンプ場も色とりどりのテントでにぎわっています。湖の回りは遊

歩道が整備され、サイクリングやボート遊びができます。近くを東海自然歩道が通っているので、ハイキングする人たちも訪れます。また、田貫湖はヘラブナ釣りの盛んなところとしても知られています。最近では、ブラックバス釣りを楽しむ人たちもいます。

『第31号・田貫湖のひみつ』は、次の資料を参考にして作りました。

- 『日本の湖沼と溪谷7』 ぎょうせい 1987
- 『東海自然歩道の地学案内』 静岡県地学会 1976
- 『ウォッチング しずおかの自然』 杉野孝雄/静岡新聞社 1989
- 「田貫湖の歴史」 渡井一峰/『湧 -Yuu-123号』 2017
- 『富士宮-中学校社会科地域学習資料-』 富士宮市教育委員会 2019
- 『フィールドワーク 静岡の地歴』 静岡県出版文化会/静岡教育出版社/1977
- 『改訂増補 伝説 富士物語』 小長谷宗芳/ 創作新報社 1969
- 『ふるさとの自然 東部編』 杉山恵一/静岡県農地森林部自然保護課 1987
- 『富士宮市の自然 第四次富士宮市域自然調査研究報告書』 富士宮市 2013
- 『野草や生物の貴重な生息地 小田貫湿原』 富士宮市

「ブックちゃんのふじのみや探検」

第3号「富士山の湧き水のひみつ」

第23号「朝霧高原のひみつ」

も見てね。



©富士宮市さくやちゃん